

令和 2 年 5 月 27 日現在

機関番号：34304

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03030

研究課題名(和文) 丹波亀山藩松平家資料に関する政治史的研究

研究課題名(英文) A historical study of the history of the Matsudaira family in the Tamba Kameyama domain

研究代表者

笹部 昌利 (SASABE, Masatoshi)

京都産業大学・文化学部・准教授

研究者番号：20399059

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：日本近世において丹波国亀山(現、京都府亀岡市)を領有した松平家(形原松平家)に関する文書についての調査をおこない、領主権力の政治制度や支配構造について問い直すとともに、それが日本近代の地域社会にどのように推移したのか、旧大名家と地域社会の相互補完的な関係を明らかにすることを目的とするものである。さらに、亀山藩松平家に考察対象を特定せず、徳川譜代に類する同系統の大名家関係文書についても対象化し、大名家間の政治的連関性、組織的共通性について考察しうる史料の調査、研究をとりおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまで非公開であったため、歴史学研究に活用されてこなかった大名家、亀山藩松平家に関する史料を調査、考察する最初の試みである。近年、大名家関係文書の調査研究が、研究者単独でなされる例が多く見受けられるが、研究グループによって調査を遂行し、議論を重ねてなされた事例は、国文学研究資料館による松代藩真田家に関するアーカイブズ研究を軸とする成果、岡山藩政史研究会の史料調査と論文集刊行などに留まり、さらに亀山藩松平家という対象が、戦後より研究蓄積がなされた西南雄藩の研究からは見えにくかった政治秩序、地域支配の構造が比較的解析しやすいという点も重要である。

研究成果の概要(英文)：I conducted a survey on documents related to the Katanohara Matsudaira family, who ruled Tanba Kameyama in the Edo period. This research is an attempt to re-examine the political system and governing structure of the Edo era, and to clarify the mutually complementary relationship between modern communities and daimyo. In addition, we have investigated not only the Matsudaira family of the Kameyama domain, but also the documents of other daimyo families, and investigated historical materials to consider political connections and organizational commonality among daimyo families.

研究分野：明治維新史

キーワード：大名家 丹波亀山藩 松平家 地域社会 大名家文書 幕末政治史

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、平成 15 年(2003)4 月より同 18 年(2006)3 月まで、京都府の亀岡市役所において『新修亀岡市史』編纂事業に携わったが、編纂に際して、京都府立総合資料館(現、京都府立京都学・歴史館)に寄託所蔵される「松平家資料」が非公開であったため、利用することができず、平成 22 年(2010)同館における史料整理が終了したことにより、研究者への目録公開がなされたことが研究開始の背景となる。

2. 研究の目的

- (1) 京都府立京都学・歴史館蔵「松平家資料」について調査、研究をおこなう。
- (2) 亀岡市文化資料館蔵「亀山藩史料」など、国内に所在する同藩史料について調査、研究をおこなう。
- (3) 亀山藩松平家との連関性が認められる大名家、特に上田藩松平家、島原藩松平家、延岡藩内藤家、福山藩阿部家についての調査、研究をおこなう。
- (4) 幕末期の京都における政治情報史料について、調査、研究をおこなう。

3. 研究の方法

- (1) 京都府立京都学・歴史館蔵「松平家資料」の調査、研究
丹波亀山藩松平家に関する歴史資料群のなかから、近世日本の政治制度および近代日本における旧大名家と地域社会の関係性をうかがいうる歴史資料を抽出し調査、研究する。
- (2) 亀岡市文化資料館蔵「亀山藩史料」および同館所蔵の藩政関係史料についての調査、研究
これまでに、亀岡市においてなされた市史編纂事業において、整理され、撮影がなされてきた。今回は、一件目録を再確認し、デジタル撮影をおこなう。
- (3) 亀山藩松平家との連関性が認められる大名家、特に上田藩松平家、島原藩松平家、延岡藩内藤家、福山藩阿部家についての調査、研究

中世に三河国加茂郡松平郷(現、豊田市松平町)に興った松平氏の一族(「十八松平」)より伝存した大名家文書の調査。

a, 上田市立博物館蔵上田藩松平家文書は、江戸中期以降、信濃国上田(現、長野県上田市)を旧領とした譜代大名にかかる文書群である。上田藩松平家は、丹波亀山藩松平家とは、同規模(5万8000石)の譜代大名であるだけでなく、江戸前期は丹波亀山を所領とするなど複数の共通点が見られる。

b, 長崎県島原市の島原図書館の肥前島原藩松平文庫において、島原藩松平家文書は、三河国深溝を出自とする深溝松平家が、寛文9年(1669)丹波国福知山から島原に移封後、同地を支配、領有した折、松平家が代々蒐集した写本など約一万冊、古文書類が保管され、昭和39年(1964)松平家より寄贈を受けた島原市が現在所蔵し、資料を修補・保管されたものである。

譜代大名家に伝存した文書の調査

a, 明治大学博物館に所蔵される内藤家文書は、日向国延岡を旧領とした譜代大名、内藤家にかかる文書群である。丹波亀山藩松平家とは、同規模(7万石)の譜代大名であり、且つ近代には相互扶助的な関係にあった。内藤家文書より亀山藩松平家に関する記載の抽出の他、同規模の大名家における政治、制度の具体像がうかがえる文書、幕末期の政治情報史料の調査をとりおこなう。

b, 福山市立福山城博物館に所蔵される備後国福山を領有した阿部家に関する文書の調査をおこなう。阿部家は、幕末期京都の守護に当たった譜代大名であり、家老家の下宮家文書は、江戸時代の藩政や、幕末期の軍事関係の史料を中心に調査した。浜本文庫は、近代の郷土史家、浜本鶴寛のコレクションであるが、幕末期における譜代藩の政情にかかる史料も確認され、貴重な歴史情報であると評価できる。

- (4) 幕末期京都の政治情報関係史料について、亀山藩松平家は、京都に隣接する所領を有する大名家として、京都の警護に当たったが、その内容は不明な点が多い。京都に滞在した他大名家の史料から得られる情報を抽出する必要がある。今回は幕末期京都の政治動向がうかがえる史料として、高知県立坂本龍馬記念館蔵「土佐藩京都藩邸史料」の調査をおこなう。全資料のデジタル撮影をおこない、内容について考察する。

4. 研究成果

(1) 京都府立京都学・歴史館蔵「松平家資料」の調査、研究

「松平家資料」の調査は、本研究における中心的な作業であった。本史料群は、おおよそ以下の8つに分類される。

近世・幕末維新时期藩政資料

松平信正・松平信興の華族社会における交友関係

維新後、松平家政関係 旧主家と旧家臣との往復書簡

松平信正の著作物

松平信正葬儀および家督相続関係

光忠寺（亀岡）・済海寺（東京）墓所関係

家禄処分・授産会社関係 家禄奉還請願訴訟関係

松平家と近代亀岡との結びつきを示す資料（契亀会、形原神社など）

「松平家資料」は6000点を越える史料群であるということもあり、今回の調査では、近世・幕末維新时期藩政資料、松平信正・松平信興の華族社会における交友関係、維新後、松平家政関係、旧藩主家と旧家臣との往復書簡、家禄処分・授産会社関係 家禄奉還請願訴訟関係の閲覧と撮影をおこなう予定であったが、一転、所蔵者より一部史料の調査についての許可が下りなかったため、とのみ撮影することとし、内容把握につとめた。

この史料群において、3代藩主松平信道が、寛政の改革の折、老中松平定信の側近的役割を務めたこともあり、定信からの来簡、定信の次男に生まれ、松代藩真田家に入った真田幸貫からの来簡44点が巻子として所蔵されていることが特筆される（20-4）。

また、20-14-1「旧雨集」は幕末期の幕府要職者および大名からの来簡、20-14-2「嚶々集」は、明治期、華族会館関係者より来簡、20-14-3「啾々集」は明治期、華族および政治家より来簡集であり、亀山藩松平家の公私にわたる他家との関係性がうかがえる。

藩士嗣系要覧は全10冊からなる藩士家の行状書類、家の系譜がしたためられた文書で、巻3と8を欠く。今回の調査においては、巻1、2、4の全文翻刻をおこなった。後日、調査研究報告書において発表する。

(2) 亀岡市文化資料館蔵「亀山藩史料」および同館所蔵の藩政関係史料についての調査、研究

亀岡市文化資料館に所蔵される亀山藩史料は、維新後、亀山藩の家臣団に伝えられてきた、藩政や藩主及び家臣団に関する古文書・記録類である。歴代の藩主の事績の記録や藩の法典「議定書」、家臣各家の系譜、「京都火之番御用」を務めた藩の任務記録、ことに天明の大火の折、火消し役を勤めた際の詳細な記録が所蔵される。このたび、すべてデジタル撮影をおこなった。

また、亀岡藩の藩校「邁訓堂」において収集、作成され、亀岡市立亀岡小学校に引き継がれ、「幕末史料」として整理されて伝存した「藩校引継史料」をこのたび、すべてデジタル撮影をおこなった。内容は、国政にかかる風聞情報、巷説を取り纏めたものであり、後日、研究論文として発表したい。

(3) 亀山藩松平家との連関性が認められる大名家、特に上田藩松平家、島原藩松平家、延岡藩内藤家、福山藩阿部家についての調査、研究

上田藩松平家文書については、亀山藩松平家関係記事の抽出の他、幕末維新时期の国政への対応がうかがえる史料、藩主の上京記録、長州戦争への随行記録などを調査した。幕末期の政治史料は、慶応年間、とくに慶応4年（1868）明治新政府への対応に集中する。藩士赤松小三郎に関する記事の抽出を試みたが、かなわなかった。

島原藩松平家（深溝松平氏）の関係史料は、島原公民館に引き継がれ、島原図書館に所蔵される本史料群以外にも、島原市本光寺・霊丘神社・猛島神社などにも伝存することを確認した。本調査においては、松平家の由緒に関わる資料（39-2松平記、42-11御家譜（島原松平家）42-12御系譜、42-13御系譜）や、政治情報記録（54-4近代雑記、57-3松平藩雑事記録、57-10天保雑記録、57-11天保五年記録、57-13幕末雑記など）、幕末の藩主松平忠恕の日記（57-7忠恕日記）などを撮影し、内容把握に努めた。

明治大学博物館に所蔵される内藤家文書については、幕末期の政治史料および近代の家政運営に関する史料の調査をおこなった。幕末期の政治史料には、九-176 禁裏献上覚、九-201 御改革万覚、九-234 為長州御征伐御進発御供御道中日々申送、九-235 御滞坂中万覚書など、藩政改革や長州征討への対応記録が確認されるが、注目すべきは、収集された政治情報にかかる記録であった（二九-140～152 風聞書）。九州に所在する譜代藩であるが、収集された情報には、単にそれが聴取されたものではなく、極めて高い政治にかかる認識がうかがえ、収集された政治情報が、藩の政治意思決定との関係したことが推察されるものであった。稿を分けて検討したい。

福山市立福山城博物館蔵阿部家関係文書であるが、家老家の下宮家文書、浜本鶴寛コレクションの調査をおこなった。福山藩阿部家は、幕末期の京都守護に大きく関与しており、今回は幕末期の軍事関係の史料を中心に調査した。福山城下にかかる絵図のほか、淀川八幡橋本台場警備陣営図(下宮家文書 566)を閲覧、撮影した。

(4)幕末期京都の政治情報関係史料について、今回は幕末期京都の政治動向がうかがえる史料として、高知県立坂本龍馬記念館蔵「土佐藩京都藩邸史料」の調査をおこなった。「土佐藩京都藩邸史料」は、平成 21 年(2009)11 月に高知県が購入し、現在、高知県立坂本龍馬記念館に所蔵されている「土佐藩京都藩邸史料」は、総点数 574 点からなり、のちに同館の購入史料と合わせて整理、保管されているものである。近世大名家の京都屋敷に所在した文書は、火災などにより焼失することがままあり、ことに幕末期に至っては、元治元年(1864)7 月 17 日未明より起こった、長州藩毛利勢と、京都防衛の責任者たる京都守護職松平容保の率いる会津藩松平勢と在京藩兵による交戦、いわゆる「禁門の変」を原因とする火災によって、禁裏御所以南の京の町が灰燼に帰したことは、「どンドン焼け」または「元治大火」として一般的にも周知されている。京都における土佐藩の拠点は、幕初より、四条河原町の北東、高瀬川に面した西側に所在した屋敷であったが、本史料群は被災を逃れ、伝存していることから元治元年七月の大火の後も、京都屋敷は機能しており、明治四年七月の廃藩置県による藩政業務の失効するまで、利用されたと考えられる。

「土佐藩京都藩邸史料」のなかの往復書簡について考察した。内容は、大きく主に京都・土佐との間で取り交わされた藩目付役発給の書状と、江戸から京都へ発せられた政治情報に分類され、総数二七七点と本史料群においてかなりのウエートを占め、目付役発給の書状は、「御用状」、すなわち藩政業務にかかる公文書として発給されており、土佐国元から在京官吏に対し、藩主山内豊範および隠居の山内容堂の動静を含めた国元の政治状況を伝えるとともに、国事にかかる藩当局の方針を申し送っている。前出の目録によれば、「書状」、「御用状」、「報告書」などと様々に表題が付されているが、土佐・京都間の書類は、すべて「御用状」である。「御用状」の考察によって、藩当局者の藩内外の政治にかかる見解のみならず、人的関係を読み取ることができ、従来の改革派を政治主体と解する幕末政治史にあらたな方法論を提示できると考える。

以上の成果については、現在、調査資料の一件目録および一部史料の翻刻を含む調査報告書(冊子)を作成中である。コロナ禍における業務状態となるが、2020 年度中の発刊を目指したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 笹部昌利	4. 巻
2. 論文標題 幕末期の国事システムと大名「御側」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 鳥取藩政史研究会編『鳥取藩研究の最前線』	6. 最初と最後の頁 303 325
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笹部昌利	4. 巻
2. 論文標題 文久政治と朝議参与 大名による国事運動とその限界	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 原田敬一編『近代日本の政治と地域』	6. 最初と最後の頁 22 - 56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笹部昌利	4. 巻 861
2. 論文標題 幕末期における土佐藩国事運動のかたち 「土佐京都藩邸史料」試論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 70 - 80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笹部昌利	4. 巻 24
2. 論文標題 禁門の変と畿内諸藩の軍役	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都産業大学日本文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 笹部昌利	4. 巻 22
2. 論文標題 薩摩藩二本松屋敷の政治的意義 島津家の「国事」と京の拠点	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 京都産業大学日本文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1、31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 笹部昌利
2. 発表標題 幕末期鳥取藩の政治情報と芸州
3. 学会等名 芸備地方史研究会(招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 池田宏、北野裕子、木全清博、桜澤誠、笹部昌利、高久嶺之介、野田公夫、久岡 道武、鳥野茂治	4. 発行年 2019年
2. 出版社 近江八幡市	5. 総ページ数 409
3. 書名 近江八幡の歴史 第8巻	

1. 著者名 坂本敬司、斎藤夏来、伊藤康晴、金行信輔、池内敏、岩淵令治、金澤雄記、大嶋陽一、岸本覚、笹部昌利	4. 発行年 2017年
2. 出版社 今井書店	5. 総ページ数 333
3. 書名 鳥取藩研究の最前線	

1. 著者名 太田浩司、賀川隆行、鍛冶宏介、鎌谷かおる、木村至宏、笹部昌利、杉江進、古川与志継、中森洋、牧知宏、水本邦彦、八杉淳、山本晃子、烏野茂治、森本英令奈	4. 発行年 2017年
2. 出版社 近江八幡市	5. 総ページ数 365
3. 書名 近江八幡の歴史 第7巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>オープンアクセス論文のURLは以下のとおり。 笹部昌利「禁門の変と畿内諸藩の軍役」『京都産業大学日本文化研究所紀要』24、pp1-40 BIJCKSU_23_1.pdf 笹部昌利「薩摩藩二本松屋敷の政治的意義 島津家の「国事」と京の拠点」『京都産業大学日本文化研究所紀要』22、pp1-31 BIJCKSU_22_1.pdf</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	母利 美和 (MORI Yoshikazu) (60367951)	京都女子大学・文学部・教授 (34305)	
連携研究者	平良 聡弘 (TAIRA Akihiro) (10625859)	大阪大学・日本語日本文化教育センター・非常勤講師 (14401)	